

# バストス週報

第二十五号  
昭和三十年  
七月十二日  
発行  
DIRETOR  
KOITI MORI  
REDATOR  
SHION ODA  
REDAÇÃO  
RUA PRES.  
VARGAS, 188  
C. Postal 112  
BASTOS  
C. P.  
誌大  
一十年80

## 總領事を迎う

バストスへは是非都合して行き度いと  
言つて居た破野總領事さんは都合よく  
二十七回バストス入植祭の七月九日午後  
二時小村事務官を帯同して来植された。  
昨日会長役員婦人会代表等ツバノ飛行場  
より随行し、病院、学校、製糸工場等見学の  
後ニ三農家を訪問といふ忙しさである。  
午後六時池田ホテルで總領事歓迎晩餐  
会が開かれ来会者八十余名、席上大要光  
の如き挨拶があった。  
ブラジルがラテン系民族によつて建國  
されてゐる事は日本人にとつては大変幸  
福であるといわねばならない。サスソ  
系民族が占めてゐる國々では大抵地  
主として同民族の繁栄にのみ力をこめ  
てゐるが、ラテン民族は実にゆつたりと  
した気持ちで日本人をも仲間に入れてく  
れた。今日迄日本人は後進移民として入  
國して来たにもかかわらず、排斥も受け  
ず次第に地盤をきづいて来たのは一にラ  
テン民族の博い度量の賜物であつて充分  
之は感謝すべき点であると思ふ。樂天的  
なコセ／＼しない此のブラジル人に交つ  
て日本人は益々発展し、原潜限りなき此  
の國の開發興隆につくしていただきたる  
。自分は今伯三ヶ月ばかりでまだ充分判  
らないが、邦人植民地に活動する諸君の情  
況を見れば、御案内を受けたいと思つて、  
バストスに入植以來七年の歩みをつい  
て、けられたる由であるが此の發展過程を  
示す諸材料を散送せしめたいよう、移住  
文のようなもの、編纂をのぞむものであ  
る。ネ々。

午後八時演舞場にしばし二世頃の舞  
踊を見物のち、谷口日会長の先導でス  
タイにあらわれ、マイクの前で簡單では  
あつたが極く親しみのある挨拶をして喝  
采を捧げた。

總領事は長身、童顔、頭髪はややうす  
く禿けをめてゐるが堂々たる体躯風貌で  
寫真で見るとより、まうと若々しい感じだ  
ある。適量な声量、挨拶振り、氣取つた  
ところや尊大なところがなく、氣がるに  
舞臺に上つて話しかける処など、大変よ  
い印象を与えたようであつた。

十日は午前十時パンテラ組合種鶏

ALFAIATARIA IMPERIAL



丸山洋服店の  
大サービス  
本庄吉切取り御持参の方は大割引いたします

WAKAMOTO

## わかもと



みんなそろって健康

東京 わかもと製菓株式会社  
市 巴クリスタ製菓会社  
社長 中久保益太郎  
C. Postal 3656 S. Paulo

湯訪問 水馬氏邸に於けるカクテル・パ  
ティでは、總領事を取囲むピラチニが  
文化協会日系学生十数のために、温情の  
舞臺を一場のアドバンスを予え、次いで  
野外シラスコ会へも顔を出して串ぶしの  
横（子牛）の味を賞味した。

主人役の水馬氏とては種鶏場につい  
てフルト区一内の同組合経営の放牛牧場  
に専食する幾千の牛を見てもういたかつ  
たであらうし、バストスの将来を暗示す  
る一大事業の片鱗として、点在する牧場の  
縮図模範として誇示してよいものである  
が、いかんせん時間がかさず、種鶏場の  
一部を案内したのみで、次の訪問場所へ  
お登を余儀なくされた。

バストス特約店  
ニシカワ  
イリネウキ  
ササキ  
薬局

正午畑中仙次郎氏邸訪問。同十日は畑中氏令嬢房子さんの結婚レセプションの最中で、総領事も来賓に交って宮阪氏と共に祝辞を呈し、午後一時ツパン飛行場へ向けて出発した。

これ迄の総領事は各線に分布する邦人村を必ず巡回することにしたが、いわゆる歓迎攻め、御馳走攻め、儀礼的巡視であつて、よいところはばかり見せるので自然アラジルのよいところ、という印象を強く受けたり、いざ、今度の磯野さんには、バスターの実態をつかむ為めに、昨年来植したばかりの養蚕移民教民を訪問した。又、バスター側で見てもらいたくないよくな処まで、のぞいて行かれたから、多少とも移民の生態というふうなものや、邦人植民地の将来性などにも觸れてゆかれたものと思われる。

大体日本の外務省移民課(畜)などでは、例へばアラジルの邦人移民の実際生活事情なども、ほとんども知らないのだそうである。よくと見るとは火打ちがよい。よいにつけ、更しきにつけ見当りがいをうていることが多いということだ。バスターなど其の点大いに買いかぶられていた。一時は巻牛家族に余る大集団地であつたと、この新開地帯へ転住する者多く、現在半減してしまつたが、新産業を適宜に取入れて、再び隆興の兆を示し、ここ数年にして昔日の繁栄を回復することを見られるよりも明かなり、いざなむと誰か言ふと、それこそそのまゝ、鶏のみにして自分の報告書と、それを基にして、本者へ送るので、本者では、それを基にして、大いに繁栄して、いざなむと、ちよと上げてしまふ、といふた案極である。

アラジルの実生活を知らず、報告書や統計のみの上でハンカンすると、とんでもないアラジルの創り出されてしまふ。バスターも、不振の底から立ち直り、あるが、文学的表現豊かな時田春一氏作「バスター」々々よいところの歌詞のようには、まだ、中々なれない。

新総領事はバスターの復興について、どのように考へられたかをあろが、吾々は磯野さんに、どういふことを期待してよい。それは、いろいろ問題として、吾々が受けた「惑」のよい人だ、という印象だけでも、何かホッとしたものを感ずるのである。(糸音)

### バスター婦人会の盆踊り

婦人会のバスター音頭は頗る好評で、古田真鍋では天然色トキキに収録し、ロンビア又はタイチクのテストを受けてテレビに送つたというが、真鍋のほとはあやしい。何しろパツと夜空に瞬間のしだれ柳、なやましいこと、我々の評判。



## ヘチマ 買い入れます

(皮とアネを取去ったもの)  
大量買受けます故 左記へ御たぐね下さい  
佐伯 時春

## トラオール

### スオルジンニヨ

ツパン市のオアシーナまでレホルマしたま、ノーボ同様の車です  
ジスコ、アラード、グラーネ 付き  
格安 にゆぐりです  
フルマリア、ササキの向い  
藤原

### 磯野総領事歓迎(紙屑拾い)ニツミの

△宮坂国人翁、只今司会者からの依頼でありまして、総領事のおりれの方を御招待申上げます。総領事のす々右に座つて居られますのが、小村書記官でありまして、皆さん方の五十歳以上の方であれば、御記憶にあることと思ひますが、かの日露戦争当時の有名な小村若太郎と申される外務大臣のお孫さんにあたられるのであります。ハハ、拍手が盛んに起る。小村書記官立ちまゝ、両手を振つて

△いざ、ちがうんです。又々拍手  
△宮坂さん、恭然たる語調で、あ、そうですか。では前言葉を取消し、小村書記官は、かのホーワースに乗り込んで、小村全権のように、今にすれば、外交官におなりになる方でありまして、いざ、又々大拍手。

△え、その隣りの方は古川事務官と申上、外務省欧米局移民課より、伯國移民の実際調査の為の来伯されまして、いかなる不肖私が御案内致しまして、いかなるに古川銅山の、いやカワチがいか。同席の邦人、南紀南子氏一芸廻しに、いさかかり、磯野勇三氏を寫生して、いさ、いその波よせてアラジルの天地を、



農産品つゞき

鶏卵之部 (出品 九十三点)

レクホーン  
 一等 アルト 中田 茂  
 二等 サウチ 野田 茂  
 三等 Gノ 湯原 茂  
 佳作 サウチ 湯原 茂  
 シヤカ 小沢 茂  
 フロレン 藤林 茂  
 新まに 西見 茂  
 フロレン 豊島 茂  
 シヤカ 寺岡 茂  
 Gノ 岩田 茂  
 Gノ 成田 茂  
 フロレン 谷口 茂  
 シヤカ 栗田 茂  
 フロレン 板垣 茂  
 シヤカ 佐藤 茂  
 フロレン 小野 茂  
 フロレン 堂前 茂  
 ホンチ 貝岐 茂  
 フロレン 小谷 茂  
 フロレン 新谷 茂  
 カサカサ 山村 茂  
 Gノ 上田 茂  
 モニラ 永野 茂  
 エスベ 諸角 茂

三ノハシノシ

高

フラ招製糸

橋本蚕種工場

(萬 出品 七十五点)

〇 一般女子手芸展示会

一等 ウニオンノ 磯谷 静  
 二等 ウニオンノ 磯原 静  
 三等 ウニオンノ 木村 静  
 佳作 ウニオンノ 石田 静  
 フロレン アノ 豊島 静  
 フロレン アノ 篠崎 静  
 フロレン アノ 種島 静  
 フロレン アノ 中田 静  
 フロレン アノ 新津 静  
 ウニオンノ 篠田 静  
 一等 岡本 静  
 二等 石野 静  
 三等 坂口 静  
 佳作 梅山 静  
 岩橋 静  
 伊藤 静  
 秋沢 静  
 ドナ エリザベチ

めがね、とけい、をペル示した方は  
 週報社まで、おいで下さい

御 礼

私たち 中央女子青年団で入植祭七月  
 八日にお加刺さ出演いたしました時、左  
 の方々から「お花」をいただきました  
 あつく御礼申上ります  
 尚、出演まで色々御面倒を見て下さ  
 た方々に紙上で御礼申上ります、ありが  
 とうございました

中央女子青年団

バル中島様 加藤与太郎様 メルクード様  
 出田と代治様 高橋セツ子 三武武文様  
 池内商店様 週報社 森ハサキ様  
 漢立様 西山レカ子 西本様  
 早川シヨウ 吹本 前山商店様  
 小池涼子 守越商店 古田正夫様  
 バル中島様 谷口章 湯井様  
 前田英昭様 古沢商店 篠崎マフ様  
 佐野万太郎様 伊藤叶子 西川聖西様  
 加藤与太郎様

第八回バストス 寫真展覧會

一部入選 (題自由)

一等 錯覚 宮崎 北  
 二等 ホート 早川 栄  
 三等 メニナ 長崎 北  
 四席 階段 宮崎 北  
 五席 回廊 安斎 北  
 佳作 籠 増田 栄  
 カタリ 早川 栄  
 静物 早川 栄  
 つるべ 早川 栄  
 シノメ 小沢 北  
 ホット 宮崎 北  
 ヨ暮れ 小沢 北  
 雪ちゃん 丸山 北

二部入選 (題 職場)

一等 耕 高崎 北  
 二等 時計師 高崎 北  
 三等 籠作り 増田 栄  
 リシエロ 丸山 北  
 倉庫にて 早川 栄  
 アルファセ 宮崎 北  
 空冠 小沢 北  
 館うり 小沢 北

尚左の方々が賞品御寄贈相成りました御礼  
 申上ります。バストス寫真同好会

一部一等賞カネ 南米銀行様  
 二部一等賞カネ 水島 久様 森商店様  
 前山商店様 守越商店様  
 木村商店様 太郎商店様  
 直道商店様 小天田商店様

御 礼

一、紫布地しほり  
右はホ七周年慰霊祭に御寄附下さりたく  
御礼申上ります

バストス聯合日本人会

小茂田吳服店様

御 礼

一、慰霊祭用御供物

右入植廿七周年慰霊祭に御寄附下さり誠  
に存謝いたします

バストス聯合日本人会

本田 パール様

古田菓子店様

福瀧裁縫学校様

御 礼

バストス聯合日本人会

本年入植祭に磯野総領事殿が来植され  
ました節色々特別な御配慮をいた  
ださ誠にありがとうございます。茲  
に紙上を以て感謝の意を表します

畑中仙次郎様

水馬 久様

トラコーマ病院

再開 通知

昨年真下先生が来植されて、バストス病  
院にて眼病の検査及治療に当られまし  
たが、まだ行き届かない地方があるの  
で、今度トッパンより眼科専門医ド  
トルカンボス氏が出張して治療に当  
てさせていただきます

眼のわるい方は、遠慮なくおいで下さい

一、毎週 月、水、金  
朝八時より午後三時半迄

一、場所 バストス病院内

一、トウコーマを主とし、其他眼病一切  
の診察及治療

一、治療費及薬は一切無料

敬老会に臨席して  
新津牛丸

老いたるを敬ふ人の心こそ  
神はからなる 神示しなれ  
老いたるを敬ふ心導しな  
れと神示りの示しなるか

入植祭俳句會

念 暖 暎

冬 季 雜

バストスは暖いふとも日本橋  
昨日まで不貞謀の彼の干ぶとん  
安宿に病みてふとんを乞いにけり  
目にみる柄の布団の垂る窓  
落書の壁の字と読み日向ほこ  
陽を吸いふとんに貪の夜を耐えん  
アバカテの中は柿の木枯れし如  
布団干す隣りの主人はシヤマきて  
此捨を乞ふ厄訪い来たれ冬さび  
つつましく布団干しある窓往來  
部屋殖す母に母来て布団縫ふ  
冬の窓花火の煙が三つ飛ぶ  
平安と涼のぬかれたる布団かな  
念 暖 先生作  
此の道の冬野つゞきに断なきが  
店頭の移成にトルコ布団派手  
念 念  
紀南  
修  
丑子  
春歩  
拙不  
奇奉  
水仙子  
淡別考  
和枝  
南声  
秋扇

ミーリヨ

脱穀 いたします

Debulha de Milho

元、友谷氏の設備一切を引受け  
ミーリヨ 脱穀の仕事を、始め  
ました  
○ 多少にか かわらぬ 御用命下さい  
○ サツコ入用の方にはお貸致します  
○ ミーリヨを買入れます

野沢一衛

マレシマル フロリアーノ 街

〔古沢シェユ石の下となり〕

ミーリヨ 脱穀

Compra-se Milho

死亡通知及會葬御礼

父 川辺千代吉こと九十七歳の夭折を全うし去る七月四日午前二時眠るが如き大往生を遂げました。同六日午後四時半自宅出棺バストス墓地に埋葬の儀生前所知各位に謹告申上ります。追而送葬の際は遠路御多忙中御会葬を賜はり且つ花輪香奠等御供被下誠に有難く存上小ます。一々拝趨致す可きなれども其の意を得ず。失礼乍ら紙上を以て御礼の御挨拶申上ゆす。

一九五五年七月七日

- 喪主 川辺 伊サノ
- 故人次男 川辺 國隆
- 長男 川辺 正身
- 妻 川辺 正美
- 五女 川辺 千鶴栄
- 六女 川辺 満恵
- 次男 川辺 和義
- 親戚 中村 慶彦
- 近 沢 義男
- 提 田 利雄
- 藤 川 一秀
- 藤 川 一子
- 秋 本 茂彦
- 秋 本 アンナ
- 伊 藤 強
- 山 辺 源吾
- 中 村 一男
- 古 屋 義亮
- 村 松 秋雄
- 霜 出 静二

各 位

バストスの最年長者逝く

バストスの最年長者川辺千代吉翁(九七)は本年入種祭に敬老会に招れて居たので毎年のこと乍ら大はり切りでその日をまわっていったところ、七月三日午後から微熱があり静養していた。食事も起居も人手を借りず平常通りであったが四日夜中ふいに息を引きとってしまった。柩木の倒れる如くというが全く大往生の安楽死といふ外はない。千代吉翁は明治十年の西前川の役には官軍の一兵として各地に転戦したが有名は田原坂の激戦は、特に奮戦して、鹿児島島の仕立に渡り合った逸話がある。のち明治十九年ハワイに渡り約十年マウイのマガオ島を暮すうちイサノさんをもうけた。金も一ももうけて故郷福岡県宮古郡セツ丸村に帰り五十四歳までそこで酒屋を営業しつゝ、村の自治につくしたが、海外生活の味忘れがたく川辺茂作氏(数年前バストスで逝去、イサノさんのマリード)を養子として家族を構成、大正二年若狭丸を渡り、イサノさんは子福者で今や親戚一門松の縁と繋ぎとる様を見て千代吉翁は安らかに息を引きたった。送状波乱の多い人生コースのあとをのこして。

御しらせ

キリスト教

講演會

講師 神学博士

B・H・ピアソン宣教師

通訳 ホリネス委員長 湯浅十郎 牧師

日時 来る七月十九日(火)

午後二時 婦人のために  
夜七時半 一般のために

「キリスト教」の話という、又かた

一般の方の注意を引かないようです

が、どうぞ、静かに、あなたの生活をふりがえつて、ゆでかけ下さい

場所 〇バストス・ホリネス教會堂

死亡通知並

会葬御礼

夫、藤川義弘こと突然の發病にて七月六日午前十一時區藥遂に及はす急逝いたしました。依り翌七日午後四時半自宅出棺バストス墓地に埋葬仕りました。此の儀生前御厚誼を賜はりました皆様へ御知らせ申上ります。葬儀にあたりましては御多忙中の処遠路御厭もなく御会葬下さった上、過分な御香華、花輪等御惠与戴き重ね重ね御芳志の深厚く御礼申上ります。取込中御礼廻りも致しかね、紙上で失礼とは存じますが取敢ず御礼御挨拶申上ります。

一九五五年七月八日

喪主

妻 藤川 みみ

母 藤川 しみ

長兄 藤川 秀一

初

次兄 向井 勵

姉 森川 美代子

姉 史子

弟 藤川 清治

親 藤川 正雄

親 藤川 義雄

親 藤川 利雄

親 中村 彦雄

親 伊藤 強郎

親 岩橋 茂太

友人代表 西 徹一

崎田 春輝

竹内 義

バストス中央男女青年団  
バストスみはり楽団

各位

七月七日は凶日か?

旧曆七月七日は七夕の祭り、天の川では素牛織女の文婦星が年一回の逢ふ顔に泣きぬれるというロマンチックな夕暮があるが、バストスでは此の日三つしつもあるが、バストスでは、めでたくない目であつた。藤川義弘君はバストス職員、幹部、会計という大藏大臣、中央青年団の顧問、そのうら方面では献身的な世話役であつた。音楽好きでヒバリ楽団の重なるホスト、トランプを保持しては魚類、妙手、又野球の世話役としてよく働く女房役、実生活では産業組合の模範的職員、頭の良い、口教の少ない、実行力の旺盛な人であつた。去る七月六日、胃が回らない急進に若い妻みえ子さんも三人の幼児をかかえて呆然たる有様、夢ではあるまいかと日夜悶々の涙にむせんで、義弘君は六歳の幼時、父兄と共に御里長崎をあとに渡り、伯昭和太年バストス、オニエ区に入り、中央小学校で日伯両教育を受け、当時のクラスメイトがバストスに中々多い。未だ三十歳を二つ位しか超えてない春秋に富む惜しい人物であつたのに、幼老不定の佛典をのち、多くの人の心を打つたことであらう。葬儀はこれに見る發儀で男女青年団教員百名が、おつきを囲む中で、組合中島事務、岩橋ヒバリ楽団長、西聯合青年団長等のよき甲詞は幼々として涙を誘い、夕風雲をさそつて、しぐれ渡る森影に黒い鳥がヒトリと鳴いていた。

畑中家のおめでた

入植祭で賑わっている中に畑中家では、おめでたの真最中、七月十日かねて婚約中の畑中房子さん(仙次郎氏三女)と植津ジヨリ(おさん)はイカトピアバストスを式を挙げる。正年より内外人有名余名のレセアソン、お若柿には破野総領事、宮坂南銀頭取、など大物も交り盛会であつた。新郎ジヨリはさん山陽之助氏の義弟で聖市のカシヤエコミカ左スラール勤勞の前途ある好青年、テレジニアさん(房子)は聖市家政女学校出身、バストスの家政学校の校長さん格を三年間有英方面に献身された。このおめでたに集つた畑中さんの息子夫婦たち、多勢の孫さんたちと、篤妻と。たの何と、三十五名の大一座だと、畑中さん、さすかに娘いさをかくさす、朗らかに大笑された。先づはめでたし。

死亡通知並に會葬御礼

長男 宗秋 こと病魔の侵すところとなり、専心療養に盡しましたが亦復致さず去る七月六日夜半遂に長逝いたしました。生前の御交誼厚く御礼申上ぐると共に右御通告申上げます。

追而翌七日午盾五時自宅出棺佛葬を以てバストス墓地に埋葬致しました。葬儀に際しましては御多用中遠路おいとも無之くお送りを頂き、且つ御芳志のこもった花輪、香華料など御手向け下さいまして何と御礼の申上げようも御座いません。一々御言葉に参上いたす可きでございませが、取込中其の意を得ず、失礼乍ら紙上を以て御礼の御挨拶申上げます。

一九五五年七月八日

喪主 父 岩崎 惣吾

母 アギ

妻 文江

長女 智恵子

親戚代表 弘田 明身

武田 正雄

友人代表 園田 孫一

穂原 徳井 一男

原田 甚五郎

樋上 治作

各位

尚 故人罹病中ツパン病院往復其の他 組員の方々にけ親身も及ばず御力添えを賜はり有難く存上げます。私身体不自由の爲め心ならずも伺い得ず申上げも御さいませ。御弔りし願上げます。 岩崎 拜